

令和3年度指定管理者制度活用事業 評価シート（こども文化センター）

1. 基本事項

施設名称	麻生区第4グループ(片平・岡上)	評価対象年度	令和3年度
事業者名	・事業者名 NPO法人児童育成会コッコロ ・代表者名 菅原 敬子 ・住所 川崎市麻生区岡上1丁目1番19号	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	R2	R3		R2	R3
	1 片平こども文化センター ①年間延べ利用者数	14,412人	19,280人	②年間延べ利用団体数	542団体 633団体
収支実績	2 片平小学校わくわくプラザ ①登録者数	223人	196人	②年間延べ利用者数	10,952人 11,397人
	3 栗木台小学校わくわくプラザ ①登録者数	285人	279人	②年間延べ利用者数	13,380人 13,673人
サービス向上の取組	3 はるひ野小学校わくわくプラザ ①登録者数	323人	276人	②年間延べ利用者数	13,550人 14,036人
	1 岡上こども文化センター ①年間延べ利用者数	9,629人	11,552人	②年間延べ利用団体数	296団体 374団体
	2 岡上小学校わくわくプラザ ①登録者数	78人	57人	②年間延べ利用者数	3,672人 4,426人
収支実績	単位:円 1 収入 指定管理料 105,866,198 その他収入 382,980 補償金 1,772,352 合計 108,021,530 2 支出 人件費 78,845,357 管理費 17,836,014 事務経費 5,782,155 その他経費 5,300,796 合計 107,764,322 3 差引 257,208				
サービス向上の取組	子どもたちの意見や要望を聞いて行事や日常に反映させるため、月1回のこども会議や毎日のこにちは会、意見箱を活用しており、提案や意見は全員で話し合い、トラブルの共有、ルールの見直しと新たなルール作りにより、子どもの主体性を重視した参加型の健全育成を行うことでサービスの向上を図っている。				

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	3	6
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全育成が図られているか。			
(評価の理由) ・仕様書に基づき、こども文化センター・わくわくプラザ事業を適正に推進した。事業計画については、感染症対策のため、中止や縮小変更を行いながら実施した。 ・各こども文化センターでは、相談しやすい環境を整え、子どもや保護者の方たちの居場所になるイベントや、取組を行った。 ・各わくわくプラザでは、子どもたちの毎日の生活の場、居場所、交友の場として安全で安心して過ごせるよう配慮して運営した。					
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ及びセルフモニタリング	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	3	6
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		セルフモニタリングについて、適切に実施しているか。			
		利用ニーズの把握、セルフモニタリングの実施の結果、業務改善につながっているか。			
	苦情等への対応	利用者からの苦情や指摘事項、意見への対応などが適切に行われているか	5	3	3
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	3	3
学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体、地域住民、施設等との連携がなされているか。	10	3	6	
施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	3	3	
わくわくプラザの充実	・①わくわくプラザ多世代交流促進事業、②学習タイム、③わくわくプラザメール配信サービス、④「地域の寺子屋事業」との連携(実施していないわくわくプラザについては、実施に向けた検討・調整等)について取り組み、わくわくプラザ事業の充実を図っているか。	5	3	3	
(評価の理由) ・利用者ニーズ及びセルフモニタリングについては、保護者から寄せられる要望や質問を参考に、日頃の活動の様子の写真や保護者が知りたい情報をまとめて保護者会で紹介し、保護者会への参加を促す取組を行ったことにより、参加率の低かった保護者会の参加率が向上した。 ・苦情等への対応について、苦情処理の体制・手順について整備され、相談窓口について利用者へ周知されている。結果として、大きな苦情事案はなかった。 ・学校や行政機関との連携・交流イベントは感染症対策のため中止となったが、地域子育て支援センターとの協力・共催によるイベントを開催し、学校とは対面によらない方法で情報交換を行っている。 ・施設・事業の広報については、コロナ禍における制約等が生じたが、施設の運営状況等を館内掲示やホームページを活用し、また、こども文化センターだよりとわくわくだよりを発行して学校へ配布するなど、積極的に広報を行っている。 ・わくわくプラザの充実については、学習タイムの実施、適時適切なメール配信、地域の寺子屋の連携など、わくわくプラザ事業の充実に取り組んでいる。なお、配信メールサービスについては、加入登録を促し、登録率の向上を図っている。					

組織管理 体制	こども文化センターにおける適正な人員配置	<p>・「仕様書」において定める職員配置の最低基準が遵守されているか。⇒①館長1名配置、②スタッフリーダー2名以上配置、③館長とスタッフリーダーの勤務を割り振らない日が重ならないように配置、④利用時間を通じて常勤職員1名以上配置⑤常勤職員配置1名の場合パートナーを配置、⑥12時30分から18時まで常勤職員2名以上配置(常勤職員を配置できない場合、常勤職員1名につき、パートナー2名の配置)</p> <p>「川崎市契約条例」が遵守されているか。</p>	5	3	3
	わくわくプラザにおける適正な人員配置	<p>・「仕様書」において定める職員配置の最低基準が遵守されているか。⇒①長期休業日等の開室時間の延長対応、②放課後児童健全育成事業の対象児童以外の利用児童概ね20名につき、チーフサポーター1名以上配置、③参加児童数の多い時間帯に学校の特別教室等を使用して、複数箇所に分かれて事業を実施、④わくわくプラザ事業に、月～金の9:30から18:00まで常勤職員を配置</p> <p>「川崎市契約条例」が遵守されているか。</p>	5	3	3
	職員の研修体制	<p>職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。</p> <p>職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。</p>	10	3	6
	個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	2	2
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>こども文化センターの適正な人員配置については仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。</li> <li>わくわくプラザの適正な人員配置については仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。</li> <li>安全管理・事故防止、衛生管理、発達障害や児童虐待、中高生の関わり方など必要な研修を受講し、法人としてビジネス関連、メンタルヘルス研修等を実施して職員の資質向上を図るとともに、ミーティング等を通じて内容をスタッフ間で共有している。元特別支援学校の校長を外部講師に招き、特別に支援を要する子どもへの対応などを具体的な事例から学ぶ研修を実施した。</li> <li>個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実はなかったが、管理業務の実施に伴い定めることとされている文書管理規定等が定められていなかった。</li> </ul>					
適正な業務 実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備(AEDを含む)の保守・点検を適切に行っているか。	5	3	3
		建築物定期点検及び建築設備定期点検の実施が適切に行われているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	10	4	8
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
		施設の防犯対策に工夫がなされているか。			
災害発生時に備えた対応が図られているか。					
災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。					
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設・設備の保守管理については、自主点検表を用いた日常のチェックと安全点検表を用いた利用者目線でのチェックを行っている。破損や危険箇所は即時に修理等を行って対応し、安全に遊べる環境維持に努めた。また、当年度に建築部定期点検及び建築設備定期点検を実施した。</li> <li>スタッフ全員が利用児童のアレルギー発症時対応やAEDの取扱いについての研修を受講し、栗木台小わくわくプラザでは、受付時に児童へ名前札を渡し、机やブースに掲示させることで、不用意な移動の抑止とコロナ禍での居場所の特定に役立てる工夫などを行っている。</li> <li>防犯対策及び災害時の対応として、子ども達の利用時間帯に避難訓練を実施し、わくわくプラザの玄関先に防災用ヘルメット等を配備するなど日ごろから防災への意識を高める取組を行っている。</li> </ul>					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
		効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適切な金銭管理・会計手続について、法人の規定等に沿った適切な会計処理が行われているとともに、会計手続きに特に問題となる事実はない。</li> <li>効率的・効果的な支出について、コロナ禍において先行きが見えない中で、必要なサービス水準を維持しながら適切な支出がなされている。</li> </ul>					

#### 4. 総合評価

評価点合計	61	評価ランク	C
-------	----	-------	---

#### 5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

<p>こども会議や毎日のこんにちは会をはじめとして、日常の会話やコミュニケーションの中から子どもたちのニーズや悩みを聞きながら、こども文化センター・わくわくプラザの管理運営に長年に渡り携わってきた経験を活かし、主体的にイベントを企画して適切に事業運営を行った。当年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う施設の利用制限やイベントの制限、利用自粛要請等を継続し、アフターコロナを踏まえて態様の見直しや地域団体等との連携の仕方などを模索しながらイベント等を順次再開したが、こども文化センターの利用者数は、前年度に比べ増加したものの、大きく回復するには至らなかった。</p> <p>麻生区第4グループでは、岡上こども文化センターにおいて、コロナで2年間中止していた、「子育て母親クラブ」を再開し、もったいないを合言葉にシェアするバザーを実施したくさんの衣類品等を集めた。また、片平小学校わくわくプラザにおいて、「わくわくピック」を開催し、子どもたちを中心に行事の企画や準備を行うことで自主性を養い、岡上小学校わくわくプラザでは、中央大学の学生ボランティアとオンライン交流ゲームを実施して多世間の交流を図った。また、前年度に引き続き、子どもや保護者の悩みや相談の窓口として巡回相談員を設置して今後の対応を検討するなど、子どものこころに寄り添う仕組みにより運営を行っているほか、栗木台小学校わくわくプラザでは、受付時に名前札を渡して自分の机やブースに掲示させることで、不用意な移動の抑止とコロナ禍での居場所の特定に役立てる工夫を行うなど、全体として良質なサービスを提供している。</p>
--

#### 6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

<p>こども文化センター・わくわくプラザは、新型コロナウイルス感染症の影響により、今後も活動内容の制限や利用自粛を行いつつ、新しい生活様式を踏まえて着実に事業を推進していく必要がある。こども文化センターが、子どもを見守り育てる安心・安全な居場所であるとともに、乳幼児から高齢者までの多世代にとって居心地の良い場となるためには、こども文化センターが主体的に学校、行政、地域の団体と連携しながら、多世代交流を核とする地域づくりを進めていくことが重要であることから、利用者をはじめとする地域のニーズを的確に把握し、それに応えられる職員の育成に努めること。また、引き続き新型コロナウイルスの感染状況に応じた対策を講じながら、こども文化センター及びわくわくプラザの効率的・効果的な運営に取り組むこと。</p>
---